



令和3年度
スタート！

小田原市の
小中学校も

児童生徒
1人1台の
学習用端末を整備

新しい学び方で、 より深い学びを。 GIGAスクール構想の実現

GIGAスクール構想は、児童生徒1人1台の学習用端末（PCやタブレット）と高速大容量の通信ネットワークを一体的に整備することで、多様な子供たち一人一人に個別最適化された学びや、創造性を育む学びを実現していこうとするものです。

社会のあらゆる場所でICTの活用が日常のものとなり、さらに、今後、技術革新がますます加速する時代を生きている子供たちにとって、学習用端末は特別なものではない、学習に欠かせない「道具」となります。

ICT環境の整備は「目的」ではなくあくまで「手段」です。ICT機器の活用と、これまでの学校の教育実践を「かけ算」し、子供たちの学び続けようとする意欲や豊かな創造性、様々な人と協働しながら課題を解決する力などを育てていきたいと考えています。

問合せ先：小田原市教育委員会教育指導課 ☎0465-33-1730

GIGAスクール構想がめざすもの

Global and Innovation Gateway for All

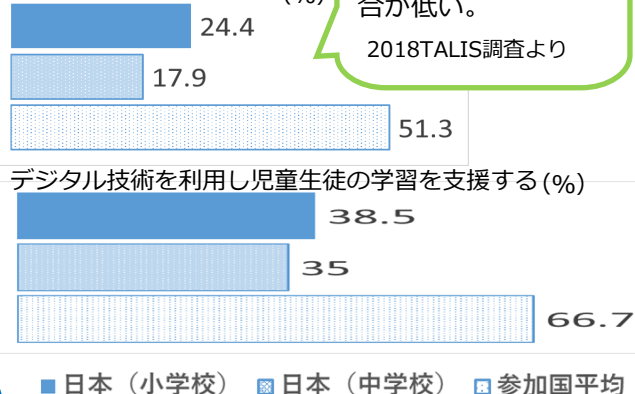
国で進めているGIGAスクール構想。

何をめざしていて、具体的に学校での学びはどうかわかっていくのでしょうか。

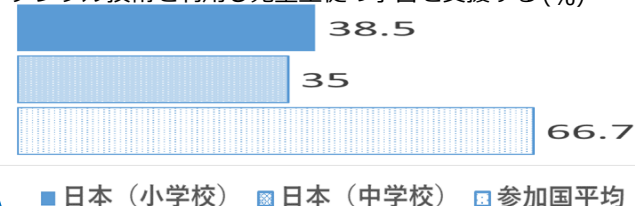
OECD諸国と比較した日本の小中学生のICT活用の現状

【学校】

児童生徒に課題や学級での活動にICTを活用させる (%)



デジタル技術を利用し児童生徒の学習を支援する (%)



【家庭】

学校の学習のためにインターネットを使う (%)

3 22.2

PCを使って宿題をする (%)

6 23

インターネットでチャットをする (%)

87.4

67.3

1人用ゲームで遊ぶ (%)

47.7

26.7

家庭におけるICT機器の平日の利用状況。学習に使用する割合が低い。
2018PISA調査より

■ 日本 ■ 参加国平均

児童生徒1人に1台の学習用端末と、高速大容量の通信ネットワークを一体的に整備します！

ICT環境整備の抜本的充実

これまでの学校の教育実践と最先端のICTのベストミックスを図って、児童生徒の力を最大限に引き出せるようにします！

デジタルならではの学びの充実

多様な子供たちを誰一人取り残すことなく、
児童生徒一人一人に公正に個別最適化され、
資質・能力を一層確実に育成できるICT環境を実現します！

より深い
学びへ

一斉の学習では

子供たち一人一人の反応を踏まえた、双方向型の一斉授業が可能に。



新しい
学び方に

個別の学習では

それぞれが同時に別々の内容を学習。一人一人の教育的ニーズや、学習状況に応じた個別学習が可能に。



新しい
学び方に

協働の学習では

一人一人の考えをお互いにリアルタイムに共有。子供同士で、各自の考えを即時に共有し、多様な意見にふれることができるように。



※イラスト出典：文部科学省「学びのイノベーション実証研究報告書」

小田原市では、国の進めるGIGAスクール構想のもと、児童生徒1人1台の学習用端末や校内の高速無線LAN環境を整備します。

こうなる！ 小田原市のICT教育①

Global and Innovation Gateway for All

学習ネットワークの全体像



児童生徒1人1台端末

児童生徒は授業で、ノート型のChromebookを使用します。

高速無線LAN環境

1人1台の学習用端末を利用した場合でも、校舎や体育館でストレスなく使うことができる無線LAN環境を整備します。

Q1 「Chromebook」って何ですか？

A1 「Chromebook」は一般的なPCと異なり、本体にソフトウェアをインストールせず、インターネット上でソフトウェアを利用する新世代のPCです。ソフトウェアをインストールしないので、電源を入れてから立ち上がり早いことや外部からのセキュリティリスクを低減できることが特徴の一つです。本体価格や運用にかかる費用を抑えることもできます。

Q2 プログラミング教育はどのように進めていくのですか？

A2 令和2年度から小学校でのプログラミング教育が必修になりました。論理的な思考力を育てることが目的です。新しい教科としての導入ではなく、算数や理科など既存の教科の中で論理的な思考力を育てていきます。令和3年度からは学習用端末やプログラミング教材「アーテックロボ」などを活用していきます。ICT機器を利用しないで学習する内容もあります。

こうなる！ 小田原市のICT教育②

Global and Innovation Gateway for All

小田原市では、ICT環境を活用し、学習者主体の授業を実践します。

児童生徒の「もっとやりたい!」「知りたい!」「聞いてみたい!」を育てます。

個別学習での活用

一例として

個別学習ソフト「ドリルパーク」を導入します

デジタル教材や個別学習ソフトウェアなどを活用し、自分の疑問について深く調べたり、自分に合った進度で学習したりします。また、一人一人の学習履歴を教員が把握し、個々の理解や関心の程度に応じた学習ができるよう取り組んでいます。

一人一人の学習の進捗等に応じて個別に学習できるソフトウェアで、解答は自動採点されます。教員は児童生徒の個別の学習状況を把握し指導にいかします。

小学校は4科目（国語・社会・算数・理科）、中学校は5科目（国語・社会・数学・理科・英語）に対応しています。

■漢字の書き取りは手書きで



協働学習での活用

一例として

授業支援ソフト「オクリンク」を導入します

子供たち同士の意見交換や発表に学習用端末を活用し、お互いを高め合う学習の充実を図ります。テキストや動画で表現や考えを記録・共有したものを何度も見直したり、話し合ったりしながら、新たな表現や考えに気付くよう取り組んでいます。

自分の考えをカードに記入し、そのカードを並べ変えたり、つなげたりしてプレゼンテーションできるソフトウェアです。ペイントやテキストだけでなく、画像や映像などを使って表現することができます。作ったカードを友だちや教員に送ってお互いに確かめあったり、協働で発表資料を作ることできます。

この他にも、Googleが提供する教育支援ツール「G Suite for Education」も活用します。オンライン上で 文書処理・表計算処理・発表資料の作成、ビデオ対話等のソフトウェアが使用できます。

児童生徒は「G suite for Education」にログインして学習用ネットワークを使用します。ログイン時のアカウントは学校から児童生徒に配付します。

Q A

Q3 自分の手で書いて覚えることや、教科書や本を読んで調べることも必要では？

A3 学校での学習全てにICT機器を活用するわけではありません。インターネットだけではなく、本や図鑑、辞書などで調べることや、実物をよく観察してその様子を鉛筆で書く活動も大切です。これからの学校の学習では、従来の学習方法とICT機器を活用した学習のそれぞれの良さをいかしていくことが必要です。学校の授業では、どの場面で端末を使うと効果的なのか、見通しをもって計画的に進める必要があると考えています。

Q4 学習用端末を長時間使用することによる健康面での影響が心配です。

A4 端末のディスプレイを長時間見続けることで、目の疲労・肩こり・倦怠（けんたい）感などが表れやすくなり、視力の低下などにつながる可能性が高まると懸念される方もいらっしゃると思います。これらの健康面への影響は医学的な研究が進められていますが、学校では児童生徒がディスプレイを長時間見続けることのないよう配慮し、正しい姿勢で使えるよう指導していきます。